

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和5年度第2回）

- 日 時 令和5年12月13日（水） 午後6時～午後7時15分
- 場 所 永山公民館 2階 講堂
- 出席者
- ・委員15名（50音順）（欠席者5名）  
上野委員，葛西委員，紙谷委員，北村委員，工藤委員，桑島委員，  
塩尻委員，島田委員，杉山委員，高橋委員，滝澤委員，土田委員，  
豊島委員，宮腰委員，山川委員
  - ・事務局職員4名  
永山支所長，同副支所長，同市民係主任，永山公民館長
  - ・福祉保険部福祉保険課2名
  - ・旭川市社会福祉協議会1名
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴者の数 なし
- 会議資料
- ・会議次第
  - ・令和5年度永山まちづくり実行委員会の予算と活動
- ※当会議録中では，次のとおり表記する。
- ・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開 会

2 会長あいさつ

第2回の協議会の開催にあたり，会長からあいさつがあった。

3 意見交換

- (1) 福祉保険部福祉保険課から「【仮称】第5期旭川市地域福祉計画・旭川市社会福祉協議会第7期地域福祉活動計画の策定に向けた意見の募集について」資料に基づき説明があった。

4 議 事

- (1)(2)について，それぞれの実行委員会の事業実施状況や今後予定している活動内容，委員が取り組んでいる活動などについて説明や意見交換を行った。委員や事務局の主な発言は次のとおり。

(委員)

「スープの冷めない“きずな”づくり」は10月21日に地域のボランティア団体の協力のもと永山第2団地で実施。旭川市立大学の学生が地元の野菜や米を使い鮭と根菜の三平汁と塩むすびを作った。配達を希望される方には学生も一緒に訪問して届け，お話をしたが，学生にとってはなかなかそういう機会はなく，コミュニケーションをとりながら話をするす

ごくいい経験になった。実施後にアンケートを取り提供107名のうち58名から回答があったが、日常での困りごとがないか聞いたところ13名からあると回答があった。その中には今回協力くださっているボランティア団体に困りごとを相談している方がおり、こういうきずなづくりの事業を行ったことでより地域の方たちの距離が近くなり、いっときだけスープを届けるのではなく、継続することでコミュニケーションが生まれたと感じた。次回は2月23日に予定しており、今回同様地元の食材を使い、さらに永山の生産者の方々と一緒におにぎりを握っていきたいと考えている。

(委員)

「冬みち守り隊」ですが、いよいよ雪が降ってきて、各地域で実施された役員会や実行委員会の中で、今年も説明会やパトロールを実施していただきたいとお願いしてきた。今年は土木事業所で説明会用の新しいDVDを制作した。各市民委員会や町内会からはパトロールの日程などの連絡が来ているところ。冬みち守り隊はこれからやっていく事業なので、これから皆様と協力してやっていきたい。また、今期で協議会からの独立を考えている。

(委員)

「地域のオタスケマン」は例年通り永山西小3年生の総合学習の時間にボランティアや交通安全、防犯や見守りの話をしてきた。その後、授業を受けた3年生は「自分たちでもできるボランティアはないか」と話し合った結果、9月26日に3年生の児童と市民委員会、町内会、父兄が参加して学校の周りから通学路のゴミ拾いを1時間ほど実施した。子どもたちがボランティアって何かということをおかしたのかと思うと大変嬉しかった。

(委員)

「永山第三SOSネットワーク」については、いよいよ最終的にネットワークを立ち上げるところまできている。10月19日にフォーラムを実施し、第三地区の町内会長や民生委員などに説明も行った。今期には立ち上げ、協議会から独立したいと思っている。

(事務局)

「地域文化振興事業」については、10月28日、29日に永山文化協会主催の永山地区文化祭が4年振りに永山公民館で開催され、展示部門に実行委員会として郷土博物館にある資料の展示を行った。資料の選定や設営などは旭川市立大学の学生が全て行い、郷土資料への愛着や関心を高めてもらうきっかけとなった。

(事務局)

「永山地区子どもの学習支援事業」は、永山図書館の休館日である毎週月曜日午後3時から5時まで音楽室を自習室として開放し、旭川市立大学の学生がボランティアで児童や生徒の見守りも兼ねて学習支援を行っている。自習室の開放日はまち協のホームページで公開しているほか、公民館事務室前の掲示やチラシなども配布して周知を図っている。

(委員)

「旭川市立大学屯田まつり支援事業」として、7月20日に大学生と地域の市民委員会女性部の皆さんが交流しながら踊りを伝承する活動を行った。まずは屯田まつりの歴史について詳しく説明を聞き、その後公民館の大ホールで曲に合わせて踊り、さらにグループごとで「お祭り」をテーマに地域の方と交流した。7月30日の本番では、大学生29名と教職員5名が参加し、大変盛り上がった。学生も有意義な時間を過ごし、地域も若い学生との交流を大変喜んでおり、次年度も続けられたらと思っている。

(委員)

「永山健康マイレージ事業」では、少しでも多くの方にご参加いただけるよう、チラシやポスターを作成し、新たに病院や歯科医院にも掲示をお願いした。新たな取り組みとして3か所で料理教室を実施、34名が参加し缶詰や栄養価の高い干し野菜を使った調理を行った。11月5日には健康セミナーを実施し、実践事例の報告や歯と栄養のフレイル予防の周知をした。様々な事業を実施したが、基本的には御自宅で介護予防の取り組みをしていただくのが目的で、20日間特に食生活や歯の取り組みを行った方には地元企業の協力により参加賞と景品を用意しており、締め切りは12月29日だが、現在120名の申込がある。是非委員の皆様も御参加いただき、健康づくりに励んでいただきたい。

(委員)

「高校生と高齢者の合同演奏会事業」については、これまでコロナでなかなか開催できなかったが、5月21日に地域の音楽を中心にしたデイサービスの利用者と旭川志峯高校吹奏楽部の皆さんで協力して合同の演奏会を開催した。予想以上の来場者であふれ中に入れぬ人も多かったが、保育園や幼稚園のお子さんも参加し、とても楽しい事業となった。住民の方からは来年も実施するのか問合せがあったり、参加した利用者から家族に楽器の演奏を褒められたと報告があり、介護認定を受けているような高齢者もいきいきと練習していてとても生きがいになっているとのことだった。また来年も開催したいという話が出ている。

(委員)

「永山南きづな・ほのぼのバザー」は、昨年度はコロナの関係で実施できなかったが、今年度は10月12日にこぼと会館を使って開催できた。およそ80名くらいの来場があり、店員として認知症当事者や障害者がパッチワークの作品を販売したが、とても一生懸命やっていた。赤い羽根共同募金も認知症当事者が対応した。バザーは地域の人にも好評で、認知症当事者の方の活動としてもすごく有効であると思ひ、可能な限り来年度以降も実施していきたいと思う。

(委員)

「永山南ボランティア養成事業」については、主に除雪ボランティアの養成や準備を想定しており、縁あって昨年度から永嶺高校のアウトドア同好会にボランティアの依頼をしている。今年は学校全体としてボランティアを募ってみようという話になったが、学校側で活動

中の事故などの整理がつかず難しかったため、アウトドア同好会に継続してもらい、可能な限り他の部にも協力を依頼したい。来年1月くらいから本格的な活動を進めている。

(委員)

「永山魅力発見隊事業」として今回初めて取り組んだ。小学生に何か面白い体験、そしていいところを見つけてもらえたらと思い、夏休みの8月に旭川農業高校と上野ファームを訪ねることになった。農業高校は生徒に全て中身をお任せしたが、生徒の親切丁寧な対応や子どもたちに対する接し方が大人も学ぶべきでないかと思うくらい素晴らしく、子どもたちも大喜びだった。広報誌あさひかわの表紙にも載り、ケーブルテレビやSTVのニュースでもあとから見るので是非ご覧いただきたい。参加者が夏休みの作品として作ったものは支所に掲示しており、子どもたちは何かを経験すると非常に成長する力強さを感じた。できればまた次回もアイデアをいろいろ考えていきたい。

(委員)

南西地区市民委員会は、完全ではないが通常の活動が戻ってきており、人が多く集まる場所での事業も徐々に進めている。今年度も冬みち守り隊の一員としてパトロールや説明会を予定しており、高齢者等除雪支援事業等も実施する予定。

(委員)

屯田まつりについて、概算で8万人くらいの来場があり大成功のうちに終わったが、高齢化が進んでおりなかなか担い手が少ない状況も見えており、神楽の花火大会などは担い手不足で事業が終わっている。先日旭川市立大学の理事長にお会いする機会があり、是非あんどん流しにも参加して欲しいとお話ししたが、試験があるのでその期間は難しく、試験の日程をずらして欲しいと要望した。また、永山地区の高校生がいろんなところに参加しており、屯田まつりも昨年永嶺高校の放送部に2日間MCをお願いしている。自分たちの活動に生かされればいいかなと思っているが、各事業でも高校生と話し合ってみたらいいかと思う。

(委員)

先ほど話のあった「スープの冷めない“きずな”づくり」には農業者数名がお手伝いしているが、参加してみてそれまでわからなかった地域の実態が見え、日々の生活に不自由を感じている人が近くにいることを知ることができた。また、これだけ農業や農村が身近にあるのに実際にはスーパーで買って、本当は自分たちの地域で作っているものを食べたいという声も聞き、仲間たちと話し合っ出張マルシェを実施したところ、非常に喜んでくださり、自分たちもエネルギーをもらった。中間に入って売り手と買い手両方のサポートをしてくれる団体もあり、非常に力となり、私たちも今後何かにつなげたいと思っている。初めての経験の中で、大きな学びの収穫があり、それを仲間たちと必ず活かすという意気込みでいる。

(3) 次年度に向けた取り組みについて、意見を交換した。委員の主な発言は次のとおり。

(委員)

今年新たな企画ということで事業を実施したが、見ていて生徒の成長をよく感じた。永山にはいろんな素晴らしいところがあるので、次年度もこういう事業に引き続き一緒にやっていきたい。

5 閉 会

以 上